巡回バスの試験走行、ソフト事業の目玉

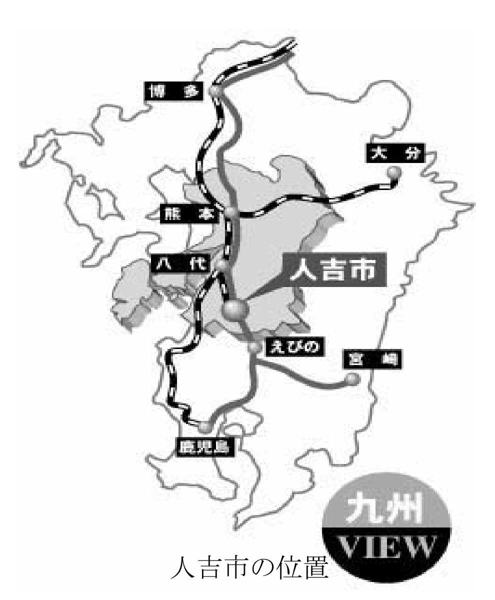
人　吉　商　工　会　議　所

機関名	人吉商工会議所	
所在地	熊本県人吉市南泉田町３－3	
電話番号	０９６６－２２－３１０１	
地域概要	(1)管内人口　　3 万 9　千人	(2)管内商店街数　5　　商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数　　2　　商店街 (内法人格 2 商店街)	(2)会員数　　３１７　商店
	(3)空店舗率　　1　　%	(4)大型店空き店舗　2　　店
商店街の類型	1.超広域型商店街　2.広域型商店街　3.地域型商店街　4.近隣型商店街	

【事業名と実施年度】

平成 13 年度　駐車対策事業　　市内巡回バス試験運行事業
総事業費　　　１１，８７３千円

【 事 業 実 施 内 容】



人吉市の位置

１．背景

熊本県人吉市の中心市街地は、相良家７００年の歴史と文化を背景に、人吉・球磨地域の中心都市としての役割を果たしてきた。明治初期の西南戦争以後大きな戦火にあうこともなかったが､いつともなく城下町らしい街並みは消え､温泉と球磨川下りを二枚看板に、人吉市は観光の町へと様変わりしてきた。

中心市街地の大きな転換期は九州自動車道の開通であった。九州自動車道は平成元年に一部が開通し、平成 7 年には全面開通となった。これによって、人吉市から福岡、熊本などの都市圏へのアクセスがよくなり、購買人口が流出するようになった。平成 5 年と平成 7 年に郊外型大型店 2 店舗が進出､ロードサイドショップや中堅スーパーの再編も始まった。一方､中心市街地では中核となる大型店が立て続けに閉店、撤退し、空洞化が進んだ。

平成 9 年ごろから、このような中心市街地の衰退に対する施策として、街づくり計画の話が持ち上がり､平成 10 年に市基本計画、商工会議所が TMO 構想、平成 11 年度商工会議所 TMO 計画を策定した。これらの計画と並行して平成 11 年度から 13 年度にかけて、県中心市街地商業活性化事業(コンセンサス形成)を推進した。また､平成 13 年度事業では､TMO 事業として､魅力ある商店街づくりソフト支援事業も同時に行っている。

2．事業内容：

（市内巡回バス試験運行事業）

（1）目的

中心市街地に対する市民の要望で最も多いのが駐車場である。このことは中心市街地活性化基本計画及び TMO 構想等の中でも重点事業のひとつとしてとらえている。

この駐車場対策については、ハード面からの整備と同時に公共交通機関としてのバス交通の整備等ソフト面からの対策も重要である。

将来、公共交通機関の整備及び中心市街地活性化のために、市内巡回バスの運行を計画しており、その試験運行を本年度実施資料収集を行うとともに、買い物客の利便性を向上させることにより、中心商店街の活性化を図るものであった。

（2）実施地域及び運行路線

市内のバス無路線地域や住宅地と中心市街地を結ぶ路線

①住宅地―中心市街地線　　走行距離　約 7.0ｋｍ

②郊外―中心市街地線　　　走行距離　約 10.6ｋｍ

（3）運行路線数及び運行回数

4 路線（2 路線の双方向運行）

運行回数は　①住宅路線　1 日当り 24 回

②郊外線　　〃　　18 回

（4）運行期間及び運行時間帯

運行期間は平成 14 年 2 月 28 日（金）～12 月 12 日（水）及び平成 14 年 1 月 30 日(木)～平成 14 年 2 月 28 日（金）の 4 ヶ月（120 時間）、毎日運行した。

なお、運行時間は朝の通勤通学時間帯から夕方の通勤通学時間帯までとした。

※通勤時間帯を入れたのは、中心市街地の駐車場不足の一因として各店舗、各事業所の従業員駐車場が不足していることがあり、従業員がバスを利用した場合のデータも収集するためだった。

（5）総運行距離

一日当たりの総烤距離は 358.8ｋｍとなり、120 時間の総走行距離は 43,056ｋｍとなった。

（6）運行形態

バス事業者に委託した。人吉営業所管内の予備的なバスを使用した。

（7）停留所

200m から 300mごとに 120 ヶ所に設置。但し、現存のバス停があるところは既存のバス停を利用した。そのうち新規のポール式バス停を 77 個設置し、既存のバス停やブロック塀に新規に装備するアルミ時刻版を 34 個設置した。

（8）運賃、利用客数

有料とした。（中学生以上 100 円。小学生以下は無料。）

料金は人吉商工会議所の収入とし、当該事業に当てるものとした。

運賃収入は総利用客数の 80％を見込んだ。

利用客見込み数　平均 3 人×42 回／1 日×120 日＝15,120 人

運賃対象者　　　15,120 人×0.8＝12,096 人

（9）各種調査

下記の本格運行に向け各種調査を実施し、データを収集した。

①乗客聴き取り調査（計 500 人を予定）

②試行運転の周辺住民へのアンケート調査（計 500 人を予定）

③商店街へのアンケート調査（運行終了後に実施。100 人予定）

④利用客の実態調査（どこのバス停から、どの時間帯に何人乗ったか等、運行期間中に全便で実施）

⑤その他

ポスター

回数券

【　　効　　果　　】

買物バス運行については、駐車場対策の一環として取り組んだが、バス運行をすることによって商店街へどのような影響があるのか等調査を行い本格運行のための前段調査もあわせて行った。

● **循環バスについて、商店街の事業者100名に対するアンケート結果から抜粋**

-本格稼動に対する期待が大きかったが・・・・-

1市内巡回買物バスの運行をしっていましたか？

知っていた	知らなかった
100.0%	0.0%

2　市内巡回買物バスに乗りましたか？

乗った	乗らなかった
34.5%	65.5%

3　市内巡回バスの運行中、商店街や通りの客数はどうでしたか？

増えた	少し増えた	変化なし	不明
1.9%	22.2%	53.7%	22.2%

4　巡回買物バスは駐車場対策に貢献していましたか？

大いに貢献した	まずまず	貢献していない	不明
9.3%	31.5%	20.4%	38.9%

5　今後、巡回バスを本格運行した場合、商店街に及ぼす影響はどうなるとおもいますか？

大変プラスになる	変化はない	役に立たない	わからない
48.2%	17.9%	10.7%	19.6%

【課 題 ・ 反 省 点】

当初は、思ったより買物バスの反響はあったものの１便の平均利用者３．５５人と奮わず、しかも中心商店街の売上増加等には余り寄与していないために、買物バス運行と並行した何らかの企画や工夫が必要だと考えている。

【 関 連　ＵＲＬ】

人吉商工会議所　　www.hitoyoshi-cci.or.jp/